

酒 ぶどう 毒 張 名

弁護団 農薬を独自鑑定

特別抗告審 年内に新証拠提出

三重県名張市で1961年、5人が死亡するなどした名張毒ぶどう酒事件の第7次再審請求特別抗告審で、奥西死刑囚(86)の弁護団は12日記者会見し、奥西死刑囚がぶどう酒に入れたとされる農薬「ニッカリンT」に関する独自鑑定を行い、年内に新証拠として提出すると表明した。鈴木泉団長は「実験を踏

まえた主張が必要だと判断した。詳しいことは申し上げられない」と述べた。

戻し異議審で、事件当時のニュース映像を証拠として提出。映像には少なくとも18個の王冠が映っていたが、8個しか開示されていない。検察側は「証拠目録を作っている」と弁護団に伝えたが、目録は開示されていないという。

奥西死刑囚は6月、名古屋拘留所から八王子医療刑務所に移送された。8月下旬に面会した特別面会人の稲生

また弁護団は、最高検に証拠開示を命令するよう最高裁に申し立てたことを明らかにした。弁護団は事件現場に落ちていた瓶の王冠やぶどう酒の瓶に付いた指紋などの開示を求めている。

弁護団は11年、差し

昌三さん(73)によると、移送直後は39度以上の高熱があったが、現在は下がって落ち着いていた状態だという。しかし栄養は点滴でしかとっておらず、稲生さんは「依然として心配だ」と話している。

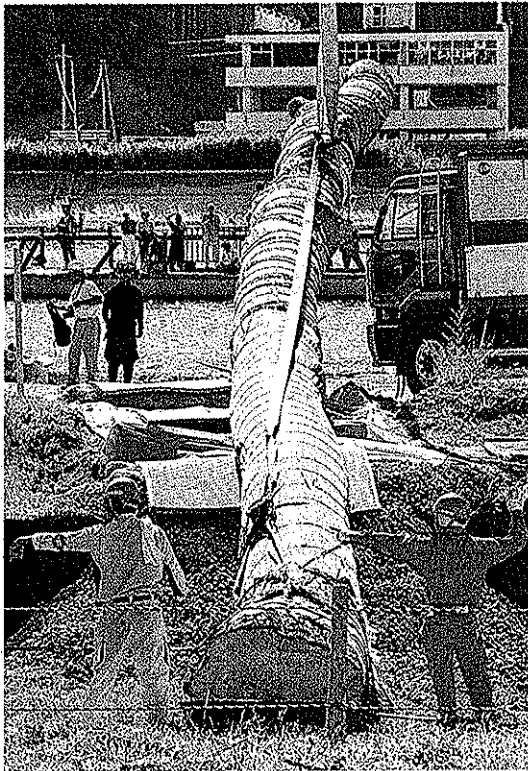
次再審請求では、05年に名古屋高裁が再審開始を決めたが、06年に高裁の別の部が取り消した。10年に最高裁が高裁に審理を差し戻し、5月に高裁が再び再審開始を取り消し、弁護団が特別抗告している。

【山口知】

年内に新証拠提出へ

名張事件弁護団 毒物を独自鑑定

三重県名張市で一九六一年、農薬入り白ぶどう酒を飲んだ女性五七次再審請求している



保存のため根元から切り倒される「奇跡の一本松」
日午後一時49分、岩手県陸前高田市で（星野大輔撮影）

奥西勝死刑囚（への）弁護団は十二日、名古屋市内で会見し、凶器として使われた農薬に関する独自鑑定を新たに実施し、年内に最高裁に新証拠として、提出すると明らかにした。

第七次再審請求の争

点は凶器の毒物が奥西死刑囚の当初の自白通り「ニッカリンT」だ

つたか否か。弁護側は実験結果などからニッカリンTではなかったと主張したが、名古屋高裁は五月、「ニッカリンTではないことを示すほどの証明力はない」として請求を棄却。弁護側は最高裁に特別抗告した。弁護側は、事件当時に市場に回収していた未開封のニッカリンTを所有しており、新たな独自鑑定はこれらを使うとみられるが、弁護団の鈴木泉団長は「内容はノーコメント」と述べた。弁護団は併せて、検察側がいまだに開示していない事件現場やぶどう酒の瓶から検出された指紋など「膨大な証拠」の開示命令を出すよう求める申立書を、三日に最高裁に提出したと発表した。

「実験踏まえ反論」

毒ブドウ酒事件弁護団 鑑定実施を発表

1961年に三重県名張市で女性5人が死亡した名張毒ブドウ酒事件の特別抗告審で、奥西勝死刑囚(86)の弁護団は12日、独自の鑑定を新たに実施して、第7次再審請求を棄却した5月の名古屋高裁決定に反論する意見書を年内に最高裁に提出する方針を明らかにした。

鈴木泉弁護団長は「推論に基づく高裁の判断は実験を踏まえたものではない。実験を踏まえた反論が必要だ」と狙いを説明した。

第7次再審請求では、犯

行に使われた毒物が、奥西死刑囚が自白した農薬ニツカリンT(製造中止)かどうかが焦点になった。弁護団はこれまで、未開封のニツカリンTを見つけ出し、独自鑑定でニツカリンTに水分が加わると生じる不純物の存在を突き止めた。事件当時の捜査側の鑑定では、被害者が飲み残した酒からこの不純物が検出されなかった。

しかし、高裁の鑑定では、当時の製法をもとに再

現したニツカリンTに水を混ぜた溶液には不純物が高濃度で含まれるものの、捜査側の鑑定の準備段階の抽出法を経ると不純物を取り出せなかった。弁護団は、不純物が抽出されることを確かめ、犯行に使われた毒物がニツカリンTではなかったことを証明したい考えだ。

また、弁護団は、ブドウ酒のふたの王冠や瓶の指紋などの証拠を検察側に開示させるよう、最高裁に申し立てた。鈴木団長は「死刑判決がひっくり返るかどうかという決定的証拠が隠されているのに、奥西さんの死刑が維持されているのか」と憤った。

2012. 9. 13 日経

名張毒ぶどう酒事件

毒物特定へ

新たな鑑定

奥西元被告側実施へ

三重県名張市で1996
1年に起きた「名張毒ぶ
どう酒事件」で死刑が確
定し、再審を求めて最高
裁に特別抗告中の奥西勝
・元被告(86)の弁護士
は12日、事件に使われた
毒物の特定のため、新た
な鑑定を実施すると発表
した。

弁護士は今日3日、最
高裁に対し、年内に毒物
に関して実験を行ったう
えで、新たな証拠を提出
するとの上申書を提出。
記者会見した鈴木泉弁護
団長は「最高裁には科学
的知見に基づき、判断し
てもらいたい」としてい
る。

同事件の第7次再審請
求審では、犯行に使われ
た毒物が元被告の自白通
りの「ニッカリンT」だ
ったかどうかが焦点。名
古屋高裁は5月、毒物が

ニッカリンTとしても矛
盾はないとして、再審請
求を退ける決定をしたた
め、元被告側が特別抗告
した。